

薬草教室だより

令和5年12月12日発行 第8号

東京都薬用植物園 〒187-0033 東京都小平市中島町 21-1 Tel042(341)0344

植物が風景をつくる

～景観を読み解くみちくさ散歩～

樹木医・ネイチャーガイド
佐々木 知幸

「植物が風景をつくる」～景観を読み解く みちくさ散歩～

2023.12. 12 佐々木 知幸

1.自己紹介

佐々木 知幸（造園家・樹木・ネイチャーガイド）

1980年埼玉県生まれ。祖母の影響で幼いころから草花に親しみ、千葉大学園芸学部にて植物生態学を学ぶ。専門性を活かして、公園・庭園づくりや管理に携わるほか、足元の植物を愛でる部活動「みちくさ部」を主宰。世田谷、鎌倉を拠点に年間50回程度さまざまな自然観察会を開いている。

2.はじめに

今回テーマとした「景観」は、薬用植物園の薬草教室のテーマとしては「なぜ!？」と疑問に思われるかもしれません。しかし、個々の植物や、山河、建物が個々の素材だとすると、それらが寄り集まった「景観」はまさに自然と人間の作る究極の「鍋」！ 単独でも美しく、面白く、(美味しい!?) それぞれの要素が織りなすハーモニー・・・植物の一つの側面として楽しまなきゃもったいないことです。本講座では「景観」を切り口にした植物の見方や、景観を楽しむ「みちくさ散歩」の楽しみ方についてお話ししていきます！



3. ある日の「みちくさ」

景観の話に移る前に、普段僕が案内している自然観察会のある日の様子をざっと追いかけていきます。登場する視点の変化にご注目ください。

《ハルメク草花散歩 早稲田編》

- 集合／江戸川橋：地形図を見せながら、周辺の地形の話。武蔵野台地の東端で、小河川の浸食により谷が刻まれていて、それによって景観が決まってくる。
- 神田川と神田上水について：江戸時代初期の水道について
- 音羽谷の崖線：湧水とそこに棲む陸貝、サワガニ
- 鳩山会館の和洋折衷の庭園：庭園内のバラと、周囲を囲むスダジイなどの照葉樹。斜面の野草
- 音羽谷を渡って反対の崖線を登る：鉄砲坂の急坂
- 目白台の下町の景観：思い思いにしつらえられた路上園芸
- 目白台を幽霊坂で下る：神田川に面した崖線の森が広がる。スダジイやシラカシの斜面林。
- 肥後細川庭園：日本庭園。庭園を構成するアカマツやイロハモミジ。斜面林のスダジイの借景
- 神田川：早稲田周辺に広がるかつての氾濫原。南北で異なる地形

・解散／穴八幡：穴から宝物が見つかったという名前の由来。徳川吉宗が作らせた高田馬場

出てくる景観要素：①地形 ②林 ③川 ④公園・庭園 ⑤社寺や建物 ⑥個々の植物 ⑦小さな生き物 →1日歩くだけで、さまざまな要素が詰まった景観を楽しむことができる！

4. 景観とは

具体的なケースを踏まえた上で、「景観」という言葉の定義を考えていくと、「自然もしくは自然と人間が相互に作用し合って生じる表面的な現れ」という定義が見えてきます。一つ一つの要素は単独で景観に含まれているわけではなく、お互いに影響しあい、複雑に混ざり合っています。そう、おだしが出る「鍋」料理のように・・・ここでポイントなのは、鍋には「表面の現れ」もあり、オタマですくえば、中身も汁もあるということです。景観も表面のことを指しますが、その奥には自然の作った基盤があり、植物など生き物や人間の暮らしという営みが含まれています。

5. 植物に着目した景観

植物に着目すると、植物の作る景観が影響される要素は以下のようなものです。そして当然ながらこれらの要素も複雑に絡み合っています。

①気候・気象

気温、降雨量、降雪量、風向、風速／標高や緯度で変化する

②地形

高山、山地、丘陵、台地、平地など標高による地形変化／河川や氷河による浸食で生じる谷、尾根、斜面、湿地、湿原、氾濫原などさまざまなスケールの地形／それに伴う土壌の違い。尾根の乾いた土、谷の肥沃な土壌、河川の砂礫、海岸の砂などなど

③地質・土壌

火山岩、堆積岩、変成岩といった岩の種類の違い／それに伴う土壌の違い。火山灰、アルカリ性土壌、先生土壌

④さまざまな災害

台風などの暴風、津波、火山噴火による火砕流や溶岩流、火山灰の降下、豪雨による土石流、土砂崩れ、豪雪による雪崩、山火事

⑤人間の活動

伝統的な「お手入れ（草刈りなど）」、大規模な造成、都市の造営、火入れ、化学物質による汚染など

これらによって生み出される植物の景観とは・・・

①森林（針葉樹林、広葉樹林、さまざまな混交林）②疎林 ③草原・草地 というように、大まかには樹木の比率で表れますが、ここからさらにどんな種類が生え、組み合わせるかでがらっと景観が変わっていきます。スライドでそれぞれの景観要素とそれに合わせた植物の組み合わせでどんな景観が生まれるか見ていきます。

5. 景観を楽しむ

こうした景観は眺めるだけでなく、その中に飛び込むことでさらに楽しみが増します。僕がライフワークとして続けている自然観察会（みちくさ部、みちくさ散歩）は、まさに景観を間近で捉える遊びなのです。

- ・マクロからミクロ・・・スケールを変えて目で楽しむ。
- ・身体で登ったり降りたり、歩いて楽しむ。
- ・今この瞬間だけでなく、過去や未来も意識して楽しむ
- ・景観から生み出される産物を楽しむ・・・その土地の料理、お酒、名産品など

と、こんなさまざまな楽しみがあります。同時に、景観には人間が強い影響を与えています。開発や造られる施設のみならず、エネルギー消費行動がソーラーパネルに、食糧の消費行動は田畑の作付けに、建築物の同行は木材生産に、人口の移動は耕作放棄地や獣害などにそれぞれ影響します。「景観」は鍋のように、さまざまな要素が詰まったハーモニーです。そのハーモニーが人間にとって生き物にとって美味しくなるのもまずくなるのも、私たちの生き様に関わってくるのだと思います。